

報告者の紹介と本研究会の概要

ミヒ=ナタリー・ルモワンヌは韓国で生まれ、韓国政府が推進していた国際養子縁組によって2歳のときにベルギー人家庭に養子に出された。以降、ヨーロッパで育ち、1990年代に実の親を探すために渡韓。韓国における国際養子の親捜しと、養子制度そのものを問題にする活動を行う。現在は「ディアスポラ」をテーマに国際的に活動するアーティスト／アクティビストである。彼女の作品は多ジャンルにわたるが、そのどれもが韓国の国際養子がぶち当たる三つの壁——「国家」「人種」「文化」——を問い、見る者の足場を揺り動かす。

国家政策によって「棄てられた」という経験、ヨーロッパがまなざすアジア、文化的・社会的な所属の感覚のなさといった彼女の作品のモチーフには、19世紀から20世紀にかけて大規模な人間の移動を引き起こした帝国主義や植民地支配の歴史的経験が埋め込まれている。

本研究会では、自らの成育歴、国際養子のための権利運動、最近の創作活動を紹介しつつ、ディアスポラとしての経験がどのように創作活動に反映されているかを語る。